

令和5年度 横浜市民スポーツ意識調査報告書 概要版

I 調査概要

- 1 目的** 国の「スポーツ基本計画」を参考に策定した「横浜市スポーツ推進計画」における、「する」「みる」「ささえる」スポーツの推進に向けて、運動・スポーツの実施率等、横浜市における現状を把握するため、市民を対象としたスポーツ意識調査を実施した。また、その結果を活かし、本市スポーツ施策における各種事業の現状と課題について考察し、課題解決に向けた新たな政策立案等につなげていく。
- 2 対象者**
 - (1) 横浜市民スポーツ意識調査①
横浜市に居住する満18歳以上の調査機関登録者男女1,997人
 - (2) 横浜市民スポーツ意識調査②（障害のある方を対象とした調査）
次のいずれかを満たす調査機関登録者合わせて209人
ア 横浜市に居住する満18歳以上の障害のある方本人
イ 横浜市に居住する満18歳以上の障害のある方と同居している家族（代理回答）
※障害のある方が複数人いる場合は、最も年齢の高い方を対象とする
- 3 抽出方法**
 - (1) 住民基本台帳登録者（令和5年3月末現在）の性別・年代・居住区の構成比率を基に市全体の縮図となるようサンプル数を割付し、調査機関登録者の中から有意抽出法により抽出
 - (2) 調査機関登録者の中から有意抽出法により抽出
- 4 調査方法** インターネットによるアンケート調査
- 5 調査期間** 令和5年10月6日（金）～10月23日（月）
- 6 回収状況**
 - (1) 有効回答数：1,967件（ウェイトバック集計後1,997件）
 - (2) 有効回答数：209件

※各区の人口構成比と調査設計のサンプルの割当て件数（1,997）でウェイトバック集計を行った。
※表中に複数回答の記載がある設問は、比率の合計が100%にならないことがある。
※回答比率は、全て「n」を基準とした百分率で表し、小数点第2位を四捨五入している。複数項目を合計した数値についてはローデータの合計値を四捨五入しており、個別の数値の合計値とは一致しない場合がある。

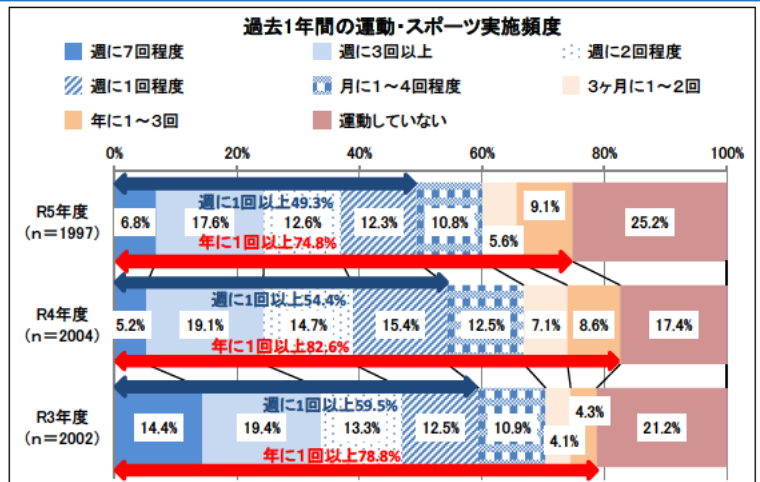
【第3期横浜市スポーツ推進計画における指標（抜粋）】

指標	目標値 (令和8年度)	令和5年度 (今回)	令和4年度
成人の週に1回以上のスポーツ実施率	70%以上	49.3%	54.4%
成人の1年に一度以上のスポーツ実施率	100%に近づける	74.8%	82.6%
スポーツが好きな人の割合	75%以上	62.7%	72.4%
働く世代・子育て世代の週1回以上のスポーツ実施率	60%以上	42.5%	47.6%
障害者の週1回以上のスポーツ実施率	65%以上	39.3%	58.5%
障害者の1年に一度以上のスポーツ実施率	80%以上	52.6%	84.0%
スポーツボランティア参加率	10%以上	5.6%	8.0%
市内でのスポーツイベント直接観戦率	30%以上	24.1%	25.9%
横浜市はスポーツが盛んであると思う市民の割合	70%以上	51.8%	53.0%

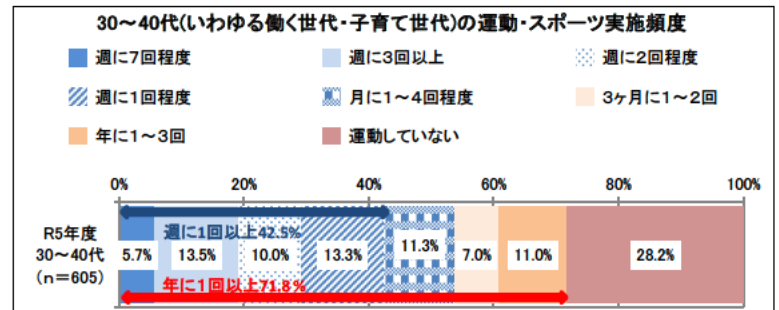
II 結果概要

「する」スポーツ

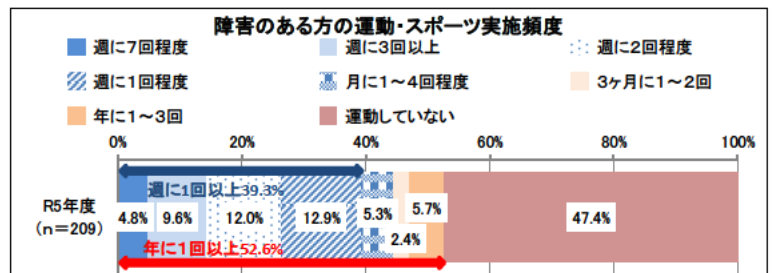
- 「週に1回以上」の運動・スポーツ実施率は49.3%
令和4年度の54.4%から5.1ポイント減、横浜市スポーツ推進計画の目標（以下、市の目標）（70%以上）には20.7ポイント及ばなかった。
- 「1年に一度以上」の運動・スポーツ実施率は74.8%
令和4年度の82.6%から7.8ポイント減、市の目標（100%に近づける）には25.2ポイント及ばなかった。



- 30~40代（いわゆる働く世代・子育て世代）の「週に1回以上」のスポーツ実施率は42.5%
令和4年度の47.6%から5.1ポイント減、市の目標（60%以上）には17.5ポイント及ばなかった。

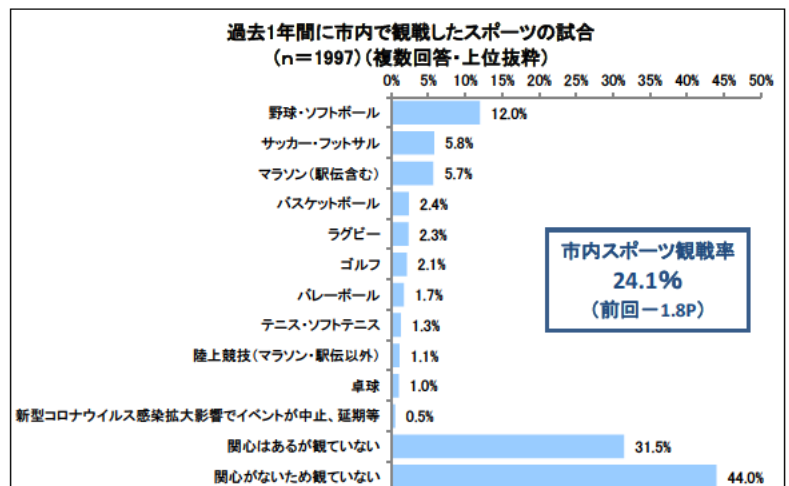


- 障害のある方の「週に1回以上」のスポーツ実施率は39.3%
令和4年度の58.5%から19.2ポイント減、市の目標（65%以上）には25.7ポイント及ばなかった。
- 障害のある方の「1年に一度以上」の運動・スポーツ実施率は52.6%
令和4年度の84.0%から31.4ポイント減、市の目標（80%以上）には27.4ポイント及ばなかった。



「みる」スポーツ

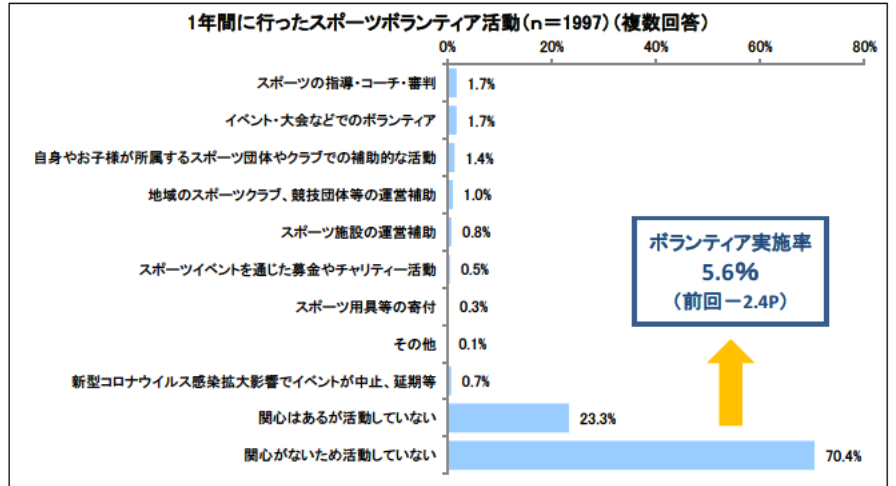
- 過去1年間の市内での観戦率は24.1%
市内でのスポーツイベント直接観戦率（プロスポーツやトップアスリートが参加するものに限らない）は24.1%となった。令和4年度の25.9%から1.8ポイント減、市の目標（30%以上）には5.9ポイント及ばなかった。
なお、種目については、「野球・ソフトボール」が12.0%で1位、次いで「サッカー・フットサル」が5.8%という結果だった。



「ささえる」スポーツ

●過去1年間に行ったスポーツボランティア活動への参加率は5.6%

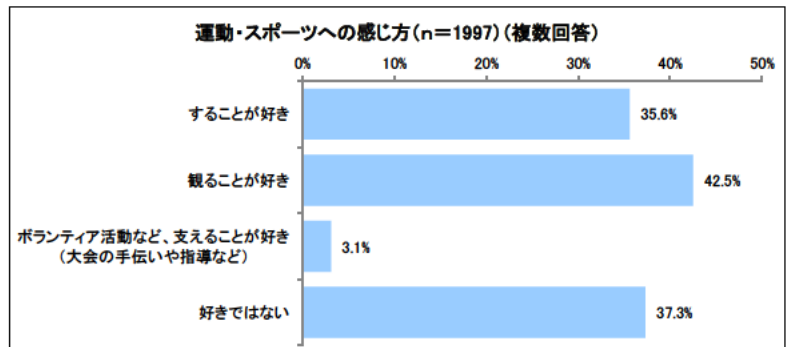
令和4年度の8.0%から2.4ポイント減、市の目標（10%以上）には4.4ポイント及ばなかった。



横浜市のスポーツについて

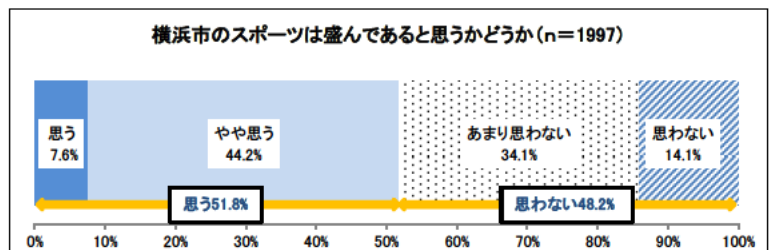
●スポーツが好きな人の割合は62.7%

スポーツへの感じ方は、「観ることが好き」(42.5%)が最も高く、次いで「することが好き」(35.6%)となった。する・みる・ささえるのいずれかを好きと回答した割合は62.7%で、令和4年度の72.4%より9.7ポイント減、市の目標（75%以上）には12.3ポイント及ばなかった。



●横浜市はスポーツが盛んであると思う人の割合は51.8%

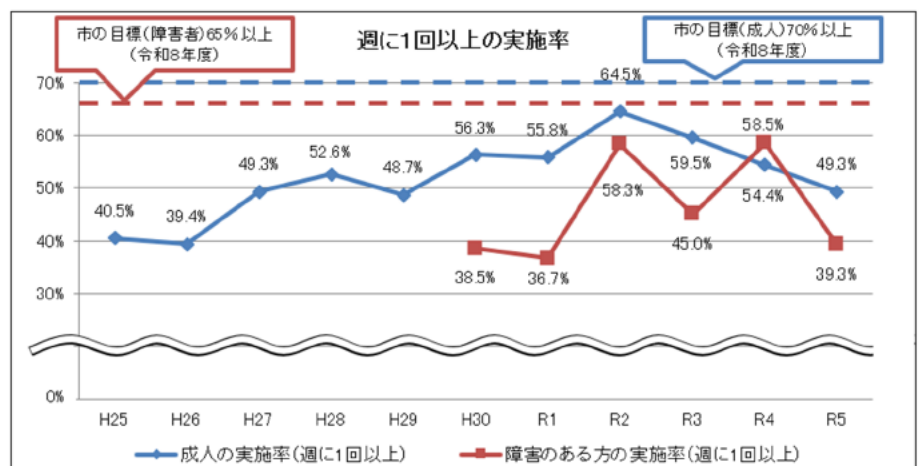
横浜市はスポーツが盛んであると思う(「思う」「やや思う」計)の割合は51.8%となり、令和4年度の53.0%から1.2ポイント減、市の目標（70%以上）には18.2ポイント及ばなかった。



Ⅲ スポーツ実施率の変化

成人の週に1回以上のスポーツ実施率は、平成26年度の39.4%から増加傾向にある。コロナ禍で令和元年度から令和2年度にかけて増加したが、令和3年度以降、減少に転じている。

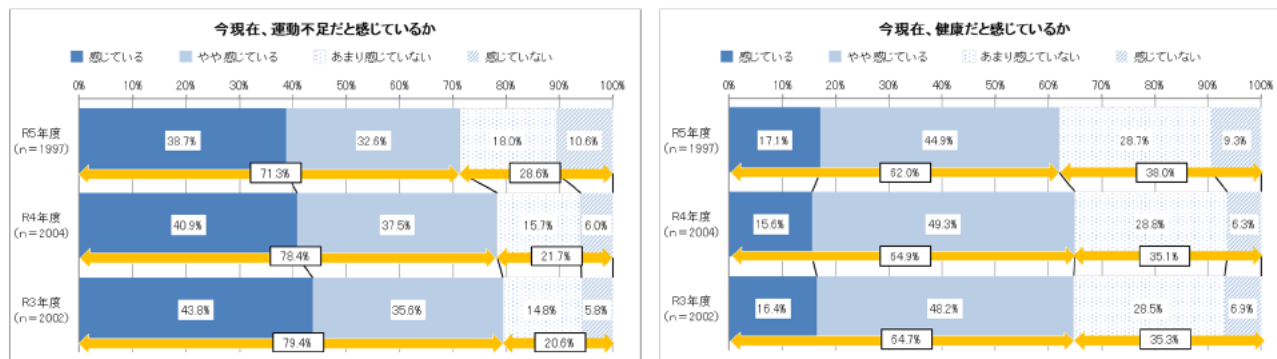
障害のある方については、平成30年度から調査を始めたが、数値の上下が大きく、何らかの傾向はみられなかった。



IV 運動・スポーツ実施に対する意識の変化

意識の変化としては、「運動不足と感じている」層（「感じている」「やや感じている」の計）は71.3%となった。令和4年度に比べ、7.1ポイント減となっており、令和3年度から年々下降している。

一方、「今現在、健康だと感じている」層（「感じている」「やや感じている」の計）は62.0%で、令和4年度に比べて2.9ポイント減に留まっている。



V まとめ

令和5年度は、令和4年度に前年度を上回った、「成人の実施率（1年に一度以上）」、「障害のある方の実施率（週に1回以上）（1年に一度以上）」、「スポーツボランティア参加率」、「スポーツが好きな人の割合」の指標を含め、すべての指標で令和4年度を下回った。

新型コロナウイルスが5類感染症に移行してから、密を気にせず行動することができるようになったものの、「成人の週に1回以上のスポーツ実施率」は減少している。一方で、「運動不足と感じている」層が7.1ポイント減少していることから、運動・スポーツを実施していなくても、運動不足を感じていないという、運動・スポーツに対する意識の変化がうかがえる。また、「成人の週に1回以上のスポーツ実施率」は5.1ポイント減少したが、「健康だと感じている」層は2.9ポイント減に留まっていることから、運動をしていなくても健康だと感じている傾向も見られる。

コロナ禍の令和2年度には「成人の週に1回以上のスポーツ実施率」が64.5%、「運動不足と感じている」層が81.3%、「今現在、健康だと感じている」層が65.3%となった。運動不足の解消や健康になるための方法として運動・スポーツが選択されていたと考えられるが、今年度の結果から見られる、運動・スポーツに対する意識の低下は、運動・スポーツの実施が健康に与える効果の意識が薄れていると考えられる。

今後、令和8年度の市の目標を達成するには、新型コロナウイルスの影響でライフスタイルが大きく変化した中で運動しなくなった層が再び運動に向かいやすくなるような環境づくりに加えて、運動・スポーツが健康に与える効果を訴求し、運動・スポーツに対する意識を取り戻すための働きかけが重要である。また、成人全体の、週に1回以上の実施率を向上させるためには、成人全体よりも実施率が低い30～40代（いわゆる働く世代・子育て世代）が運動しやすい環境を整えることも、引き続き、重要な鍵となる。

VI 報告書について

報告書（PDF）は、横浜市ホームページにて公開しています。報告書では、単純集計のほか、性別、年代別、性・年代別、居住区別のクロス集計結果等も掲載しています。詳細は報告書を御参照ください。

※結果については、年度毎の回答者が異なるため、回答者特性に違いが生じています。

【令和5年度横浜市民スポーツ意識調査報告書 概要版】

令和6年3月
編集・発行 横浜市にぎわいスポーツ文化局スポーツ振興課
横浜市中区本町 6-50-10
045-671-3583
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kanko-bunka/sports/>

